

御伝鈔 (その8)

親鸞聖人のひ孫である覚如上人が、親鸞没後33年に親鸞聖人の御遺徳を讃えた『報恩講私記』を著わされました。続いてその翌年、親鸞聖人の伝記絵『親鸞伝絵』を著わされ、詞書（ことばがき）の部分だけを『御伝鈔』（上巻・八段、下巻・七段）といいます。

上巻・第八段 「入西鑑察（にゅうさいかんざつ）」

親鸞聖人は、お弟子の入西房の心を察し、ご自分の肖像画を描くことをお許しになって、「七条あたりに住んでいる禅定法橋（ぜんじょうほっきょう）に描かせてはどうか。」と仰いました。

入西房に招かれてやって来た禅定法橋が、親鸞聖人を見てビックリし、また喜びの涙を流しながら申しました。「昨夜、尊いお坊さんの夢を見ました。そのお坊さんのお顔はあなたそっくりです。また、その尊いお坊さんのはの正体は、長野・善光寺の阿弥陀如来さまであるということです。」



これは、親鸞聖人70歳の仁治三年（1242年）9月20日の夜の事です。

つくづくこの不思議なことを考えてみますと、親鸞聖人が阿弥陀如来さまの化身であるということは間違いのないことです。親鸞聖人の弘められた「本願念仏の教え」は、阿弥陀如来さまの直説です。親鸞聖人のみ教えをみんなで仰いでいきましょう。



その夜は、一匹のギザミを塩焼きにして、息子と分け合って食べました。ギザミの命を頂いたという、一番大切な事、息子に伝わったかな。ナンマンダブツ…合掌。

をゲット。

先日、早朝早起きして、御門徒さんに教えてもらった安芸津の某釣り場へ行ってきました。釣り初心者ですし坊主の私だけに、ボウズを覚悟しておりましたが、なんと一匹、ギザミが釣れました。釣り上げたのは息子。一匹だけでも大満足だったのは言うまでもありません。

大人になってからの私は、僧侶だから釣りをしない…のではなく、釣りをするタイミングと縁が全くなりませんでした。ところが先日、小学生の息子が、「釣りがしたい…」と急に言いだして…。困ったのは私。釣り道具は持っておらず、どこへ行ったら釣れるのやら何も分からない。それから、釣り情報をインターネットで調べ、近くの海は安芸津ですから、現地の釣り好きの御門徒さん宅へ電話して、初心者でも釣れそうな釣り場情報



住職レター

私が小学生の頃、近所の友達と一緒に、近くの池や川へ釣りに行っていました。しかし、父親に連れて行ってもらったことはありません。僧侶は殺生を禁ずるの教えを守っていたのか、ただ単に釣り好きでなかったのか、今でも定かではありませんが…。